

平成31年度全国学力・学習状況調査 結果と対策

会津若松市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査実施日 平成31年4月18日(木)

(2) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ③ 教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立に役立てる。

(3) 調査対象

- ① 実施小学校：19校、実施学年：小学校6年生、実施人数：1,019名
- ② 実施中学校：11校、実施学年：中学校3年生、実施人数：961名

(4) 調査内容

- ① 教科に関する調査：()内は問題数
 - ・ 小学校：国語(14問)、算数(14問)
 - ・ 中学校：国語(10問)、数学(16問)、英語(21問)
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・ 児童生徒に対する調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ・ 学校に対する調査：指導方法等に関する調査

2 教科に関する調査の結果(平均正答率)

(1) 小学6年

	会津若松市	会津	福島県	全国
国語	65	64	64	63.8
算数	63	63	65	66.6

(2) 中学3年

	会津若松市	会津	福島県	全国
国語	70	70	72	72.8
数学	56	55	57	59.8
英語	50	49	53	56.0

(3) 会津若松市学力向上推進計画における学力を評価する指標の状況(全国平均100)

① 小学6年

教科	H28	H29	H30	H31
国語	98.8	102.0	100.5	101.9
算数	98.1	104.4	101.7	94.6
理科			101.2	
2教科(国・算)	98.4	103.2	101.1	98.2
3教科			101.1	

② 中学3年

教科	H28	H29	H30	H31
国語	97.3	100.3	96.1	96.2
数学	91.9	94.8	92.0	93.6
理科			95.3	
英語				89.3
2教科(国・数)	95.0	97.9	94.3	95.0
3教科			94.5	93.3

3 各教科に関する分析

- ：全国平均又は県平均を上回り、正答率が高かった主な問題
- ：全国平均と県平均を下回り、正答率が低かった主な問題

(1) 小学6年：国語

- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。
- 話しての意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。

(2) 小学6年：算数

- 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができる。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。
- 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。

(3) 中学3年：国語

- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。
- 封筒の書き方を理解して書く。
- 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。

(4) 中学3年：数学

- 簡単な場合について、確率を求めることができる。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。

(5) 中学3年：英語

- 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる。
- 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。
- 与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。

4 児童生徒質問紙に関する分析（肯定的な回答の割合）

(1) 国語への関心について

- ・ 小学校は全国平均を上回り、県平均とほぼ同じである。
- ・ 中学校は全国平均とほぼ同じで、県平均を下回る。

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
国語の勉強は好き	69.8	71.5	64.2	63.6	64.9	61.7
国語の勉強は大切だと思う	94.5	94.2	93.0	90.3	93.3	91.0
国語の授業の内容はよく分かる	90.1	87.7	84.9	73.7	78.6	77.6
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ	92.5	92.5	91.2	87.2	90.9	88.0

(2) 算数・数学への関心について

- ・ 小学校は全国平均、県平均とほぼ同じである。
- ・ 中学校は全国平均、県平均とほぼ同じである。

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
算数・数学の勉強は好き	70.8	70.9	68.6	59.2	56.6	57.9
算数・数学の勉強は大切だと思う	93.7	93.9	93.7	83.3	85.3	84.2
算数・数学の授業の内容はよく分かる	83.7	83.1	83.5	73.3	71.7	73.9
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ	92.0	92.6	92.5	75.8	77.7	76.2

(3) 英語への関心について

- ・ 中学校は全国平均、県平均を下回る。

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
英語の勉強は好き				50.3	54.6	56.0
英語の勉強は大切だと思う				80.4	84.6	85.4
英語の授業の内容はよく分かる				57.2	64.7	66.0
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ				80.7	83.8	85.4

(4) 規範意識について

- ・ 小学校は全国平均、県平均とほぼ同じである。
- ・ 中学校は全国平均をやや下回り、県平均とほぼ同じである。

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
学校のきまり（規則）を守っている	95.0	94.2	92.3	94.0	95.9	96.2
いじめは、どんな理由があってもいけない	95.2	96.4	97.1	94.9	95.1	95.1
人の役に立つ人間になりたい	94.1	94.6	95.2	93.5	94.3	94.3

(5) 自己有用感について

- ・ 小学校は全国平均、県平均とほぼ同じである。
- ・ 中学校は全国平均、県平均とほぼ同じである。

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
自分には、よいところがある	80.8	79.2	81.2	73.0	72.7	74.1
先生は、あなたのよいところを認めてくれている	89.9	87.9	86.1	82.2	79.5	81.5
将来の夢や目標を持っている	81.7	84.4	83.8	70.0	73.5	70.5

(6) 生活習慣・学習習慣について

- ・ 小学校は全国平均を上回り、県平均をやや上回る。
- ・ 中学校は全国平均とほぼ同じで、県平均をやや下回る。

主な質問事項	小学校			中学校		
	会津若松市	福島県	全国	会津若松市	福島県	全国
朝食を毎日食べている	96.5	96.1	95.3	93.4	93.7	93.1
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	86.1	85.6	81.4	76.3	78.3	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	93.5	93.0	91.6	92.5	93.9	92.8
家で自分で計画を立てて勉強している	80.7	77.9	71.5	48.4	52.4	50.4

5 学校質問紙に関する分析（肯定的な回答の割合）

○：全国平均と県平均を上回る主な項目

●：全国平均と県平均を下回る主な項目

(1) 小学校

- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。
- 近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った。
- 対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。
- 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。

(2) 中学校

- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。
- 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加した。
- 英語の指導として、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行った。
- 対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。
- 英語の指導として、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行った。
- 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。

6 学力向上の対策

(1) あいづっこ学力向上推進事業アクションプランにおいて実施している学校の主な取り組み

- ① 電子黒板やデジタル教材等 I C T の活用を図った授業を推進し、学習への関心や意欲を高め、積極的な学習態度を育てるとともに、学習内容の理解を深め、学力の定着を図ります。
- ② 読解力向上の手立てとして、N I E への取組を充実させるとともに、地域や社会で起こっている問題や学校図書館等の資料を積極的に活用します。
 - ・ 各学校で週に1～3回新聞を読む児童生徒の割合を倍にする具体策をたて、学校が推進する。
- ③ 基礎的・基本的内容の一層の定着や思考力、判断力、表現力等を含む活用する力の向上のために、県教育委員会作成の「活用力育成シート」等を積極的に活用します。
 - ・ 県教育委員会作成の「活用力育成シート」の100%活用を図る。
 - ・ 数学の週末課題を配布し、年度末までの見通しをもって毎週の取組を継続する。
- ④ 英語科・外国語活動指導者研修会を実施し、外国語指導助手(A L T)との連携を図り、コミュニケーション能力の向上とともに英語への興味・関心を高めます。
 - ・ A L T による各校の英語科研修会の完全実施と学力向上指導助言のための指導主事訪問を実施する。

(2) 教育委員会としての各学校への重点的な支援

- ① 平成31年度全国学力・学習状況調査の結果分析により成果や課題を明確にし、学校全体で共通理解を図るとともに、具体的な対策や指導計画の改善に向けた指導助言を行います。
 - ・ 市独自の問題作成委員会を立ち上げ、各校の教員により模擬問題を作成し、1月末～2月に市内児童・生徒向けのチャレンジテストとして配付し、各校の学力向上への取り組みの評価材料とする。
 - ・ 管理職を対象とした学力向上研修会を実施し、家庭学習の改善(時間、内容)の具体策の検証、活用力育成シートや定着確認シートの完全実施、Q-U分析に基づく学級集団づくりの改善策等について現状分析させ、あいづっこ学力向上推進事業アクションプランの実施効果を高める。
- ② 会津教育事務所との連携を図り、指導主事の学校訪問を通し、授業改善や各学校の課題解決に向けた指導助言を行います。
 - ・ 市の指導主事による国語、算数・数学、英語科の学校訪問回数を必要に応じて増やし、各学校のニーズに沿って授業改善を図る。
- ③ 小中連携推進会議を通し、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定に向けた指導助言を行います。
 - ・ 小中連携推進会議を通じて、児童生徒の小中接続における国語、算数・数学、英語の学習理解状況を共有し、分析を基に具体的な学力向上プランを策定する。